

## [01] 和の文化表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26570>

---

出版情報：和の文化. 1, 2012-03-31. NP0法人和の文化研究会  
バージョン：  
権利関係：



## 7. 出前講座「和の婚礼」



### 1 日目 講義編

日時／2011年（平成23年）10月11日（火） 午後1時～午後4時

場所／麻生ブライダル&製菓専門学校

講師／荒木正見(NPO 法人和の文化研究会理事長)

飯富章宏(NPO 法人和の文化研究会副理事長)

### 2 日目 演習編

日時／2011年10月18日（火） 午後1時～午後4時

場所／福岡市中央区警固神社神徳館

講師／飯富章宏(NPO 法人和の文化研究会副理事長)

今村嘉太郎(助演：能楽師観世流シテ方)

ブライダル関係の人材を育成している麻生ブライダル&製菓専門学校の1年生を対象に「和の婚礼」を授業として提供いたしました。

### 【講義編要旨】

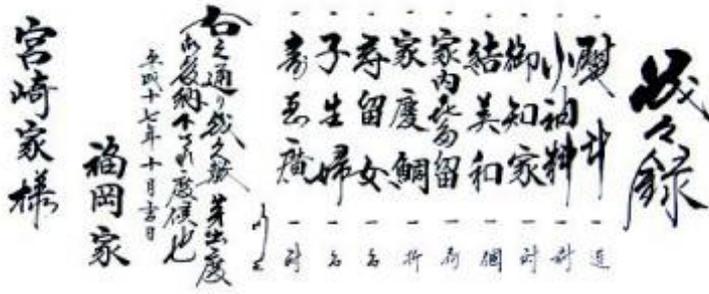
婚席に神々が臨在するという考えは中世の床飾りから見られ、江戸中期の貞丈雑記に明文化された。新郎の自宅に身内の者が集まり、高砂の尉と姥の掛け軸を床の間に掛け、鶴亀の置物を飾った島台を置き、その前で盃事をして結婚式をする、いわゆる祝言が行われた。家の床の間は神様が居る神聖な場所で、掛け軸や島台も神様の依り所でもあり、当時から結婚式は宗教と密接な関係があった。旧暦の10月は「神無月」であったので、結婚式はこの月を避けて行われた。「宗教色を無くす」という意図において一時期流行した人前式（じんぜんしき）は、この意味において全くの別物である。

（なお、荒木正見講義の詳細は本誌論文を参照のこと。）

【演習編】







以下は当日資料。

**結納の実際**

- 日取り 一般に、大安、友引、先勝等、吉日とされ、なほ(午前中が良い)
- 五式神前 押正八人(休日の押正八人は押正八人の両家を併し、双方共に結納品を交換するもの)
- 嫁室では結婚記念品、嫁衣装束等の贈り物もなっている。
- 結納は礼儀厳格であり、地域風や家々でやり方が異なる。事前に打ち合わせが望ましい。

1. 押入到着  
押入のみ、女側で挨拶。  
[女側席での口上]  
この度は、おめでとうございます。本日は吉日でございますので、  
○家より、結納の品を持参いたしました。  
[嫁室答礼]  
お役目、御苦労さまでございます。どうぞ、お入りくださいませ。  
[押入]  
平儀でございますが、お挨拶願います。  
結納の品を飾りつける。
2. 披露のあいさつ  
次久録(目録)は、衣裏の上に置き、挨拶をかけ、婿方の父親の前に差し出す。  
[結納の口上]  
本日はお日柄よく、ご婚約の証(あかし)として、結納を持参致しました。  
長久しく、お納めくださいませ。  
お返す、手渡して、差し出す。(三方は贈り目を相手に向けること)
3. 答礼  
親にごくおいとお言葉をたまわり、その上結納の品をいただきます。有難うございます。長久しくお受けいたします。  
次久録は結納物の中に入れて差し出す。(三方は贈り目を相手に向けること)
4. 婿方挨拶  
本日は、ご婚約をいただき有難うございます。愛書をお受けください。  
と、贈られた愛書を押入に手渡す。
5. 結納儀式終了  
[押入口上]  
ご両家のご結納の後、めでた(納まりました)。本日は、親におめでとうございます。  
婿方は用意したお祝いの飲み物(お茶など)などを出し、両家でいただきます。  
この後、別室で控えていた、家人や親戚などに報告します。  
この際、両家の紹介や、結婚室の記念品などを贈りあう場合があります。  
注意事項 仏壇や神棚は御先祖に挨拶する意味で、最初ににお参りする事が望ましい。  
ただし、祀られている場合は要しない。

古式婚礼次第 以下は一切静粛に、謡いのみが流れる。

- 1 入場 今回は省略。着座より  
入場者(順)男媒、女媒、男仲人、花婿、女仲人、花嫁、介添人(数人)
- 2 着座  
男媒 床に向かい、右側  
女媒 床に向かい、左側  
男仲人 床を背に右側  
花婿 床に向かって左に對座  
女仲人 床を背に左側  
花嫁 床に向かって右に對座
- 介添人(数人) 適宜の位置に着座
- 3 初誓の儀  
男媒・女媒 飾り棚に向かい酒肴三方と餚子三方を取り元位置に  
女媒 提の神酒を餚子に注ぐ  
男媒・女媒 立って嫁方の前に
- 4 三三九度の儀  
一献(小の盃)謡いあり  
男媒 小の盃を勧める(三方は二手、左廻し)  
花嫁 小の盃をとり、神酒を求める  
女媒 神酒を注ぐ(一献一杯目)  
花嫁 三口にて一杯、元に戻す  
男媒 三方を先のようにして、取り、女媒とともに、婿方へ  
男媒 小の盃を勧める(三方は二手、左廻し)  
女媒 神酒を注ぐ(一献一杯目)  
花婿 三口にて一杯、その盃にて神酒を求める  
女媒 神酒を注ぐ(一献二杯目)  
花婿 三口にて一杯、元に戻す  
男媒・女媒 同じく、婿方に  
女媒 神酒を注ぐ(一献二杯目)  
花嫁 三口にて一杯、その盃にて神酒を求める  
女媒 神酒を注ぐ(一献三杯目)  
花嫁 三口にて一杯、元に戻す  
男媒・女媒 同じく、婿方に  
女媒 神酒を注ぐ(一献三杯目)  
花婿 三口にて一杯、その盃を三方内の脇へ置く

**二献(中の盃)**

- 花婿 中の盃をとり、神酒を求める
- 女媒 神酒を注ぐ(二献目)
- 花婿 同じ盃にて、三杯重ねる
- 男媒・女媒 同じく、婿方に
- 花婿 中の盃をとり、神酒を求める
- 女媒 神酒を注ぐ(二献目)
- 花婿 同じ盃にて、三杯重ねる

**三献(大の盃)**

- 花婿 大の盃をとり、神酒を求める
- 女媒 神酒を注ぐ(三献目)
- 花婿 同じ盃にて、三杯重ねる
- 男媒・女媒 同じく、婿方に
- 花婿 大の盃をとり、神酒を求める
- 女媒 神酒を注ぐ(三献目)
- 花婿 同じ盃にて、三杯重ね、盃をおく
- 男媒・女媒 一旦座に戻り、酒肴三方、餚子三方を飾り棚に据える

**5 結びの儀**

- 男媒・女媒 床に向かい一礼、結びの作法  
全員 座を改める。床中心に両人がならび、媒酌人両側に
- 他の出席者 婿方、嫁方と向かい合って居並ぶ
- 男媒・女媒 次の三方を用意する。両家の父前に据える

**6 親子固めの儀 謡いあり**

- 男媒・女媒 両家共に進行。婿の父の盃は、嫁に。嫁の父の盃は婿に。権(たすき)

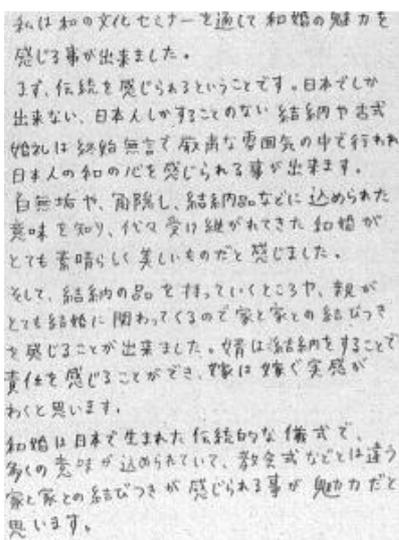
**7 兄弟固めの儀 今回は略す。謡いのみ行う**

- 8 歳久しく  
媒酌人：一言「歳ひさしく」

以下は生徒の感想。

和の文化研究会では今年10月、麻生外語観光&製菓専門学校様に対して和の婚礼講座をご提供致しました。同講座を受講していただいたのは、ブライダル科の学生さん約50名。後日送っていただいた感想文の中から、2つだけピックアップしてご紹介します。

## 和婚の魅力



私は和の文化セミナーを通して和婚の魅力を感じる事が出来ました。  
まず、伝統を感じられるということです。日本でしか出来ない、日本人しかすることのない結納や古式婚礼は終始無言で厳粛な雰囲気の中で行われ、日本人の和の心を感じられる事が出来ます。  
白無垢や、角隠し、結納品などに込められた意味を知り、代々受け継がれてきた和婚がとても素晴らしい美しいものだと感じました。  
そして、結納の品を持っていくところや、親がとて多婚に関わってくるので家と家との結びつきを感じることが出来ました。婿は結納をすることで責任を感じることができ、嫁には嫁ぐ実感がわくと思います。  
和婚は日本で生まれた伝統的な儀式で、多くの意味が込められていて、教会式などとは違う家と家との結びつきを感じられる事が魅力だと思います。

私は和の文化セミナーを通して和婚の魅力を感じる事が出来ました。

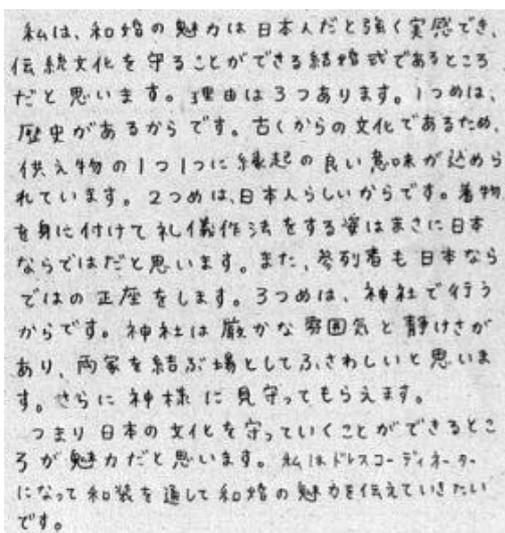
まず、伝統を感じられるということです。日本でしか出来ない、日本人しかすることのない結納や古式婚礼は終始無言で厳粛な雰囲気の中で行われ、日本人の和の心を感じられる事が出来ます。

白無垢や、角隠し、結納品などに込められた意味を知り、代々受け継がれてきた和婚がとても素晴らしい美しいものだと感じました。

そして、結納の品を持っていくところや、親がとて多婚に関わってくるので家と家との結びつきを感じることが出来ました。婿は結納をすることで責任を感じることができ、嫁には嫁ぐ実感がわくと思います。

和婚は日本で生まれた伝統的な儀式で、多くの意味が込められていて、教会式などとは違う家と家との結びつきを感じられる事が魅力だと思います。

私は、和婚の魅力は日本人だと強く実感でき、伝統文化を守ることができる結婚式であるところだと思います。理由は3つあります。1つめは、歴史があるからです。古くからの



私は、和婚の魅力は日本人だと強く実感でき、伝統文化を守ることができる結婚式であるところだと思います。理由は3つあります。1つめは、歴史があるからです。古くからの文化であるため、供え物の1つ1つに縁起の良い意味が込められています。2つめは、日本人らしいからです。着物を身に付けて礼儀作法をする姿はまさに日本ならではの正座をします。3つめは、神社で行うからです。神社は厳かな雰囲気と静けさがあり、両家を結ぶ場としてふさわしいと思います。さらに神様に見守ってもらえます。つまり日本の文化を守っていくことができるところが魅力だと思います。私はドレスコーディネーターになって和装を通して和婚の魅力を伝えていきたいです。

文化であるため、供え物の1つ1つに縁起の良い意味が込められています。2つめは、日本人らしいからです。着物を身に付けて礼儀作法をする姿はまさに日本ならではの正座をします。3つめは、神社で行うからです。神社は厳かな雰囲気と静けさがあり、両家を結ぶ場としてふさわしいと思います。さらに神様に見守ってもらえます。つまり日本の文化を守っていくことができるところが魅力だと思います。私はドレスコーディネーターになって和装を通して和婚の魅力を伝えていきたいです。

## その他の感想

- ・ 伝統を感じました。
- ・ 終始無言で厳粛な雰囲気の中で行われました。
- ・ 白無垢や角隠し、結納品などに込められた意味を知りました。
- ・ 代々受け継がれてきた和婚は美しいものだと感じました。
- ・ 親がとても結婚に関わってくるので、家と家との結びつきを感じる事が出来ました。
- ・ 婿は結納をすることで責任を感じ、嫁は嫁ぐ実感がわくと思います。
- ・ 和婚は日本で生まれた伝統的な儀式で、多くの意味が込められています。
- ・ 日本人だと強く実感できました。
- ・ 伝統文化を守ることができる結婚式。
- ・ 着物を身に付けて礼儀作法をする姿は日本ならではの。
- ・ 「高砂」の謡いで祝います。
- ・ 日本独特のものだと思います。
- ・ 結納品には全てに意味があり、今も昔のやり方が受け継がれています。
- ・ 両家の仲が深まる。
- ・ 結納や三三九度を行う事により、両者も親族も固い覚悟で式に取り組んでいく。
- ・ このような内容を知り、私の中で今まで以上に大切な儀式だと感じました。
- ・ 和装は家族とのつながりを改めて実感することが出来る。
- ・ 和装はドレスと違い紋が入ることで両親からうけついできたものを感じることができる。
- ・ おごそかで静かな、日本ならではの文化を受けついでいくもの。
- ・ チャペル式に憧れていましたが、三三九度の儀式に魅了されました。
- ・ 単なる形での儀式ではなく、両家の心と心を繋ぐ儀式であると感じました。
- ・ 結納式を初めて生で見て、勉強になりました。
- ・ 私は和婚もしてみたいと感じました。
- ・ これからもっとたくさんの人に、和婚の魅力を伝えていくべきだと思います。
- ・ 白無垢の純潔さ、色打掛けの鮮やかさが、清楚で良い雰囲気をかもし出していました。
- ・ 私は日本の良さについて、改めて考え直すことができました。
- ・ このような伝統を絶やさず、受け継いでいくべきだと思います。 (抜粋)



